

平成26年度
年次報告

一般財団法人日本青年館

I. 公益活動

1. 青年活動振興事業

1) 活動家養成事業の開催（6月14日～15日 日本青年館）

青年活動を継続発展させていくためには、常に中心的な担い手となるリーダーを養成していくことが不可欠です。また、全国規模で活動をすすめていくために、道府県の枠を超えて優れた活動事例に学びあう場を作っていくことが、極めて重要なことです。このような視点から、日本青年団協議会（日青協）と共に地域青年活動リーダーの養成をめざし、研修事業を行っています。

今年度は、「聴く」「伝える」「学ぶ」「つなぐ」の4つの視点からコミュニケーション理論や「聴く力」「伝える力」についてワークショップを行い、各県青年団における加盟団状況マップ作成、今年度のオルグ目標を作成しました。中央開催となって3年目となる今年度は11府県から20名の道府県青年団役員が参加しました。

講師：松本昌子（株式会社 WOOMAX）

加藤義弘（元日青協会長）

2) 第63回全国青年大会の開催（11月7日～10日 東京体育館他）

全国青年大会は、講和条約発効を記念して1952（昭和27）年に第1回大会が開催され、以来、勤労青年のスポーツ・文化活動の発表と技能向上の場として、全国の青年団が中心となって毎年東京で開催しています。この大会は、一部の種目を除き国民体育大会や国際競技会などに出場した経験のある選手には参加資格がなく、地域で地道にスポーツや文化活動に携わっている青年が参加するものです。地域のスポーツ、文化活動の裾野を広げ、より多くの青年たちに活躍の場を提供するとともに、全国から集まった青年たちの交流と友好を深めることにも重点を置くことにより、平和で文化的な住みよい地域を創っていくことを目的にしています。

今年度の大会参加者数は交流種目を含めて36都道府県から2,211名、昨年度に比べて40名の増加となりました。東北ブロックや関東ブロック、九州ブロックが増加傾向にあり、とりわけ宮城県では3年連続で派遣者数を増やし、今年100名を突破しました。また、参加費の見直しによる効果により体育種目が増加し、新たに取り組んだダーツ種目では、8道県17名の参加がありました。

今年の開会式は昨年度に引き続き瑤子女王殿下にご臨席いただきおことばを賜りました。また、安倍内閣総理大臣からメッセージをいただいたほか、山本ともひろ文部科学大臣政務官より祝辞をいただきました。

各競技においては、参加選手たちも地元を背負って気迫溢れるプレーを見せ、各種目で熱戦熱演が繰り広げられました。また、交流種目であるのどじまんでは静岡県から出場したチームが演目最後に「ありがとう 日本青年館」の横断幕を広げるシーンがあり、現日本青年館で行う最後の全国青年大会として花を添えました。なお、郷土芸能の部で優れた活動をしている団体に贈られる後藤文夫賞は、今年度は宮崎県若宮青年神楽が受賞しました。

今年度の青年大会実施種目は以下の通りです。

<スポーツ> バレーボール、バスケットボール、バドミントン、軟式野球、卓球、柔道、
剣道、ボウリング、フットサル

<文 化> 合唱、郷土芸能、写真展、生活文化展、将棋、意見発表

<交流プログラム> のどじまん大会、舞台パフォーマンス大会、青年団ダーツ大会

3) 第60回記念全国青年問題研究集会の開催 (3月6日～8日 日本青年館)

「青年問題研究集会」(青研集会)は、1950年代に日青協が創造した、働く青年の生活課題解決を目指す学習・実践活動の集約の場としての集会です。1954(昭和29)年に、勤労青年の教育のあり方、考え方として「勤労青年教育基本要綱」を策定した日青協は、青年の自主的学習活動として「共同学習」運動を全国に呼びかけました。共同学習運動は、仲間づくりと話し合い学習を重視し、生活や活動の身近な問題を語り合う中から共通の課題を見出し、共同の力によって課題解決の実践に取り組んでいくという、青年の主体性、自主性を重視した実践的学習運動です。このような共同学習運動の全国的集約と発展的展開を目指す場として、日青協は1955(昭和30)年から「全国青年問題研究集会」(全国青研集会)を開催しています。青研集会は、青年個人や青年組織を巡る問題を、取り組んだ実践活動に基づいてレポート化し、テーマごとに分科会を設定して議論します。助言者の力も借りつつ参加者全体の討議によって問題の所在や社会的背景を明らかにし、再び地域で実践することで課題解決に努めることを目指しています。

今年度は19道県から87名の参加者が日本青年館に集まり、また同時開催した青年活動支援者フォーラムには14名が参加しました。

今年は60回目の節目でもあり、記念講演に映画監督の山田洋次氏をお招きして、東洋大学教授・矢口悦子先生(日本青年館評議員)との対談の形でお話いただきました。映画「同胞」の制作などにまつわるエピソードや、若者への期待、震災や今日の日本社会に関わる思いなどについてお話いただきました。この他、これまでの学びあいと語り合いを振り返る記念企画も行い、60回の節目と現青年館最後の事業として相応しい内容を持って終えることができました。

4) 青年活動支援者フォーラムの開催

2007年から実施している、青年教育や青年活動の支援者同士のネットワークづくりをねらいとした事業は、今年度も「青年活動支援者フォーラム」とし、全国青年問題研究集会と同時開催しました。募集にあたり公民館職員や自治体職員、また青年会館にも呼びかけ、様々な形で青年を支援する立場の方々が集まる場にするのをめざし、全国から道県14名の参加者を迎えることができました。

今回はまず姉崎洋一先生(北海道大学大学院教授)に「我が国の社会教育における現状と課題」と題した全体講義をしていただき、その後二つの分科会に分かれて討論しました。「青年が集まる講座」の分科会では、新潟県十日町の青年学級の取り組みについての実践報告を、「青年教育の意義と成果」の分科会では、山形県の「青年交流事業」における実践報告をしていただきました。二日目はフィールドワークとして、三鷹で若者の学習支援や就労支援を行っているNPO文化学習協同ネットワークを全員で訪問し、運営状況や若者の現状などを学びました。

本事業には昨年度同様に(特活)コミュニティワーク研究実践センター事務局長の穴澤義晴氏と、北海道大学大学院教授の姉崎洋一氏、日本体育大学教授の上田幸夫氏にコーディネーターとして関わっていただきました。青年教育や若者支援に携わる人たちが、都道府県や職業、所属などの垣根をこえて経験を交流し、課題を共有する場にすることができました。

5) 全国地域青年実践大賞の開催

全国の優れた青年活動の取り組みに学びあい、それを顕彰することをねらいに、全国の青年

団や教育委員会などを通じて呼びかけた「全国地域青年実践大賞」には、12道府県から20実践の活動事例の応募がありました。審査会では「青年団らしい活動がきちんと継承されている」と評価をいただきました。受賞団体は次の通りです。

◇実践大賞

活動に常時または定期的に取り組み、地域に大きく貢献した実践を行った1団体に表彰状並びに活動奨励金5万円を授与する。

受賞団体 ・庄町青年団（石川県津幡町） 「津幡町庄区秋季祭礼祭」

◇準実践大賞

実践対象に次いで優れた実践に取り組んだ団体（2団体）に表彰状並びに活動奨励金3万円を授与する。

受賞団体 ・3.love line(スリーラブライン)（岡山県）
「自主制作ムービー「Message」制作・上映
・三原村青年団（高知県） 「ニッポンの田舎あそび運動会」

◇実践奨励賞

長期間にわたって取り組まれている実践や、新たな活動に取り組んだ実践など、上記二賞に準ずる団体（3団体以内）に表彰状を授与する。

受賞団体 ・まるもり町青年団Re:birth.（宮城県）
「NEO青年団始動」～今この時代に生きる若者にマッチする新しい青年団の仕組み～
・晩稲青年団（和歌山県）
「日本一の梅の里で先輩方から受け継ぐ時代劇」
・椎葉村青年団連絡協議会（宮崎県）
「Music Vibrations in Shiiba」

◇田澤義鋪賞

田澤義鋪の実績に基づき、明正選挙運動、地方自治の発展や地域振興活動に取り組み、優れた成果を収めた団体に日本青年館より表彰状と活動奨励金5万円を授与する。

受賞団体 ・香川県青年連合会
「香川県青年センター指定管理者としての実践」
～OBとの連携から生み出されるもの～

◇全国青年団OB会奨励賞

全国の青年団にとって励みとなるような組織強化拡大に顕著な実績を上げた団体に、全国青年団OB会より表彰状と活動奨励金5万円を授与する。

受賞団体 ・球磨郡青年団協議会（熊本県）
「地域から必要とされる青年団へ、そして各市町村団へ必要とされる球青協へ」－企画部の発足と実践－

◇全国青年団OB県議の会奨励賞

青年団活動に自信と誇りを持ち、地域に暮らす人々の励みとなるような地域活動に顕著な実績を上げた団体に、全国青年団OB県議の会より表彰状と活動奨励金5万円を授与する。

受賞団体 ・今津町青年団（滋賀県） 「今青親子肝試し」

6) 第45回北方領土復帰促進婦人・青年交流集会の開催（7月19日～21日 根室市）

日青協は1966（昭和41）年より北方領土返還要求運動に取り組み、1970（昭和45）年より婦人会の全国組織である全国地域婦人団体連絡協議会とともに、北方領土を望む納沙布岬での視察、北方領土問題の学習、元島民の返還への思いを伺うなどの内容で、北方領土復帰促進婦人・青年交流集会を開催してきました。また日青協は北方領土返還要求署名運動、世論啓発のための全国キャラバンなどにも取り組み、北方領土返還要求運動連絡協議会の議長団体も務めています。今年度は、全国から19名が参加して第44回北方領土復帰促進婦人・青年交流集会を実施しました。集会では元島民や二世の方々との交流、返還運動関係者が加わったグループ別意見交換会などを行い、北方領土返還要求運動の重要性を再認識する機会となりました。

7) 青年団平和集会の開催（8月9日：長崎市）

日青協は結成当初より平和の問題を大切にしてきました。1954（昭和29）年のビキニ事件をきっかけとして国民に広がった原水爆禁止と被爆者援護の運動と連動し、青年団運動の柱として平和運動に取り組むようになりました。以来、核兵器廃絶の署名運動や広島・長崎・沖縄の視察と学習、被爆者や戦争体験者の話を聞き、被爆・戦争の実相を継承していくことなどに、多くの若者が取り組んできました。

今年度は、長崎市において平和集会を開催し、全国から25名が参加しました。平和記念式典への参加、被爆体験の聞き取りなどを行い、交流会では平和大使の高校生30名との意見交換会を行うなど充実した内容となりました。

8) 中華全国青年連合会との交流（日青協第23次植林訪中団の派遣）

日青協は1956（昭和31）年より中華全国青年連合会との交流を行ってきました。特に、1992（平成4）年より、軍事によらない国際交流と地球環境の保全という視点から、中華全国青年連合会と共に、内モンゴル自治区で沙漠の緑化事業に取り組んできました。2001（平成13）年には日本政府が日中緑化交流基金を設立、日青協も基金から助成を受け、内モンゴル自治区に加えて河北省豊寧満族自治県でも事業を行っています。

今年度は、8月22日～26日、中国内蒙古自治区オルドス市達拉特旗（ダラトキ）での植林活動に、11名を派遣し約900㎡にポプラ150本を植林しました。また地元青年達との意見交換会も行いました。

9) 韓国青少年団体協議会代表団受け入れ事業の開催（9月18日～21日：都内、静岡県）

2012年に中央青少年団体連絡協議会（中青連）が解散した後、日青協はその事務局機能の役割を担ってきました。その中で、韓国青少年団体協議会（韓青協）との交流は日青協が窓口となって継続し、今年度も9月18日から21日にかけて、韓国青少年団体協議会より曹澁鉉（チョ・ダルヒュン）事務総長と李相沅（リ・サンウォン）幹事の代表2名を受け入れました。日本の青少年団体との懇談会や青少年施設への訪問、都内名所の視察などのほか、静岡県青年団との交流や対話が実現できたことは今回の最も大きな成果と言えます。

なお、中青連は解散したものの、加盟していた団体間の交流は継続されており、現在「中青連世話人会」として連絡交流を行っています。今回の韓青協幹部の来日に際して、今後は日青協と中青連世話人会との協力で、韓青協との指導者交流事業を継続することを決めました。日韓関係が困難な状況下、青少年団体が協力して交流事業の継続を決定したことは大きな意義があります。また、日青協が中青連世話人会の国際的な窓口として、今後も役割を担っていくことが期待されています。

2. 第63回全国民俗芸能大会の開催（11月22日 日本青年館大ホール）

全国各地に伝えられる民俗芸能は、各地の風土と生活の中で生まれ、地域の人々によって歴史的に育まれてきたものです。それらは国民の生活の推移を物語る貴重な民俗文化財でもあります。この大会は、このような各地の貴重な民俗芸能を舞台で公開し、民俗芸能の重要性を多くの人々に認識してもらおうと開催してきました。

歴史をひもとくと、日本で初めて地域の芸能を舞台で紹介したのが初代日本青年館のこけら落としとして開催された「郷土舞踊と民謡の会」で、1925(大正14)年のことでした。戦後この流れを継承してきた当事業は、通算すると73回目となります。これまでに460あまりの芸能を紹介してきました。出演者にとっては大会出場が大きな自信につながり、これを契機に芸能の保存の機運も高まり大きな成果をあげています。また、早くからこうした芸能の記録保存に取り組んできたのも当大会でした。

今年度の第63回全国民俗芸能大会は、11月22日、全国民俗芸能保存振興市町村連盟との共催で、民俗芸能学会と連携しつつ「神楽」をテーマに開催し、盛会裡に終了しました。出演芸能は以下の通り。今回の研究公演は島根県の隠岐島前神楽。

<出演演目>

- ・山形県最上郡金山町 金山の稲沢番楽
- ・神奈川県鎌倉市 鶴岡八幡宮御神楽
- ・長野県木曾郡上松町 駒ヶ岳の太々神楽
- ・島根県隠岐郡海士町 隠岐島前神楽

<企画委員>

山路	興造	民俗芸能学会代表理事
西角井	正大	前実践女子大学大学院教授
吉川	周平	京都市立芸術大学名誉教授
星野	紘	元文化庁伝統文化課主任調査官
齊籐	裕嗣	前文化庁伝統文化財課主任調査官
宮田	繁幸	文化庁伝統文化課主任文化財調査官
吉田	純子	文化庁伝統文化課文化財調査官
俵木	悟	成城大学文芸学部准教授
神田	竜浩	(独)日本芸術文化振興会 国立劇場第二制作課主任
久保田	裕道	(独)国立文化財機構 東京文化財研究所無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長

3. 「The Seinen」と月刊誌「社会教育」の発行

1) 「The Seinen」の発行

日本青年館で開催された全国青年団OB会総会東京大会に合わせて、「The Seinen」を特集号として発行しました。タイトルは、「二代目日本青年館はこうして建てられた—歴史的転換期を迎えて—」。二代目日本青年館の最後の年にあたるため、青年館や日青協のこれまでの貴重な資料をひもときながら、二代目青年館建設運動に焦点をあてた内容とし、OB会参加者に配布した他、青年団関係者や関係団体、田澤義鋪記念会会員、その他関係機関に配布しました。今後は日本青年館をアピールする様々な機会に活用してまいります。

2) 月刊誌「社会教育」の発行

今年度も、月刊誌「社会教育」を12回発行しました。社会教育を多様な角度から幅広くとら

え、行政、施設職員、さらに様々な現場からの情報が満載されていると各分野の方々から好評を得ています。

平成26年度 [特集内容]

- 4月 (814号) これからの社会教育職員・社会教育委員のミッションとは
- 5月 (815号) 地域で子どもを支える仕組み-「放課後」「土曜日」の社会教育
- 6月 (816号) 社会教育の「要」としての社会教育主事
- 7月 (817号) 安心安全な「青少年とメディア・ネット」の関係とは～ケータイ・スマホとの上手なつきあい方～
- 8月 (818号) 社会教育施設とボランティアのコラボレーション～行政と民間の協働
これまでの10年、これからの10年～
- 9月 (819号) 「NPO・企業」と共創する学びの場～社会教育の未来を探る～
- 10月 (820号) 生涯学習時代の学校と地域～ESD (持続可能な発展のための教育)の視点を加えて～
- 11月 (821号) 公民館・図書館・博物館の連携～社会教育施設はどう連携するのか
- 12月 (822号) 社会教育のOJT～実務経験を活かす、実務経験から学ぶ～
- 1月 (823号) 社会教育のO f f J T + α ～オフタイムの活用～
- 2月 (824号) 青少年育成と地域の元気づくり～子どもゆめ基金の活用を通して
- 3月 (825号) 平成26年度の社会教育・生涯学習の課題と27年度への展望について

4. 図書・資料センター

日本で唯一、戦前・戦後期の地域青年団活動資料を所蔵する当館の図書・資料センターは、財団設立4年後の1925 (大正14) 年に建物の竣工とともに付設されました。以来、広く一般に公開してきましたが、とりわけ社会教育関係者、大学教師や大学院生などの研究者、自治体史編さん関係、NHKなどテレビ関係者など多くの方々に利用されてきました。今年度は日本青年館の移転のため、閲覧を中止し、厚木市にある倉庫への搬出作業を進めてきました。

5. 文化事業

1) ウィーン・ピアノデュオ・クトロヴァッツ (PDK) の公演交流

全国各地の方々に地元で世界レベルの音楽に触れる機会を提供することを目的に、ヨーロッパを中心とした海外からすぐれたアーティストを招聘し、全国的なコンサートツアーを実施しています。

今年度も世界屈指のピアノデュオ奏者で、ウィーン国立音楽大学の教授も務めるエドワード & ヨハネス・クトロヴァッツの両名を8月18日～9月4日 (山中湖国際音楽祭)、11月19日～12月2日 (コンサートツアー) の日程で招聘しました。今年度は、11月に5会場で7公演を実施した他、山中湖国際音楽祭終了後の宮城県気仙沼市で大谷子ども未来基金主催の小中学生対象のコンサートとあわせて、計6会場8公演を実施し、各地で大好評を得ることができました。山梨県甲斐市では保坂武評議員、香川県善通寺市では氏家寿士監事、高知県梶原町では立道斎日青協会長に開催実現に向けて大変ご尽力をいただきました。日本青年館大ホールでは、青年館ファイナルイベント第二弾として「ありがとう そして さよなら日本青年館」記念コンサートを開催し、多くのご来場を得て成功裡にコンサートを実施しました。

9月 2日 宮城県気仙沼市はまなすホール (中学生公演)

[主催: 大谷子ども未来基金、一般財団法人日本青年館]

11月21日 山梨県甲斐市双葉ふれあい文化館公演 (中学生公演2回)

- [主催：山梨県甲斐市教育委員会(2回とも)]
- 11月24日 神奈川県相模女子大グリーンホール公演
[主催：クトロヴァッツコンサートさがまち実行委員会]
- 11月26日 日本青年館大ホール公演
[主催：一般財団法人日本青年館、株式会社ニッセイ]
- 11月28日 善通寺市民会館公演（中学生公演1回、一般公演1回）
[中学生公演主催：香川県善通寺市教育委員会]
[一般公演主催：善通寺ライオンズクラブ]
- 11月30日 高知県梶原町ゆすはら座公演
[主催：高知県梶原町連合青年団]

2) 山中湖国際音楽祭2014の開催（8月29日～31日 山中湖畔荘清溪）

優れた音楽芸術鑑賞の機会を多くの方に提供し、文化振興と若手音楽家の発掘・育成、開催地周辺の地域活性に寄与することを目的に、2007年から山中湖国際音楽祭を開催しています。

今年で7回目を迎えた山中湖国際音楽祭は、オーストリアから5名、日本から3名のアーティストを招いて、3日間で4コンサートを実施し、西洋音楽と邦楽とのみごとな融合に、観客から大好評を得ることができました。観客数は3日間で総勢500名を得て、無事終了しました。

<主催>

一般財団法人日本青年館、株式会社ニッセイ、山中湖国際音楽祭実行委員会

<後援>

文化庁、オーストリア大使館、山梨県教育委員会、山中湖村、山中湖村教育委員会、山中湖観光協会、富士急株式会社、社団法人全日本ピアノ指導者協会、読売新聞東京本社、NHK甲府放送局、山梨日日新聞、山梨放送、テレビ山梨

<協賛>

株式会社ヤマハミュージックジャパン、他多数

<協力>

Tanaka Keiko Office、PDK 200 Club Japan、スピカ

<出演者>

[海外]

ヨハネス・クトロヴァッツ (Johannes Kutorowatz)	ピアノ
エドワード・クトロヴァッツ (Eduard Kutorowatz)	ピアノ
クリスチャン・ショル (Christian Scholl)	ヴァイオリン
シンシア・リャオ (Cynthia Liao)	ヴィオラ
ルイス・ゾリタ (Luis Zorita)	チェロ

[日本]

米澤 浩	尺八
三山 正寛	津軽三味線
熊澤栄利子	箏
塚田 裕	アート (インスタレーション)

6. 高校オーケストラ活動支援事業

日本青年館の施設を活用してオーケストラ活動を通じた青少年の育成に取り組んで、21年目を迎えました。「高校の吹奏楽は全国的な発表・交流の場があるが、オーケストラの場合はそうした場がない。ぜひそのような場を…」という高校の先生方の声を受けてのスタートでした。以来、ティンパニやコントラバスなどの大型楽器の配備・充実に努めるとともに、平成10年には全日本高等学校オーケストラ連盟（事務局：日本青年館）を組織し、全国的なネットワークづくりにも取り組んできました。現在、連盟には全国97の高校が加盟しています。

今年度は、その連盟と協力して以下の4つの事業に取り組んできました。

1) 第15回全国高等学校オーケストラ・サマークリニックの開催

(8/16~19 山中湖畔荘清溪)

演奏技術のレベルアップと音楽を通じた交流と仲間づくりを目的に、全国の高校生に呼びかけて今回で15回目の開催になります。今回も夏休み期間中に3泊4日の日程で、関東地方を中心に26校から215名の高校生が参加。基礎的な力を高め、高校生同士の交流をはかり、プロ奏者からの直接指導による技術と人間性の向上を目標に山中湖畔荘清溪で開催しました。内容は、27名の講師によるオーケストラ楽器の各パート毎に分かれての基礎練習、多様な編成によるアンサンブルやオーケストラ合奏の練習、最終日には3日間の成果を発表し合うアンサンブルとオーケストラの発表会を行いました。

また、指揮者の河地良智先生による指揮法講座を実施し、学生指揮者を目指す生徒同士の交流と専門知識・技術の修得の場を設けました。

*参加者在籍校は以下のとおりです。

〈茨城県〉 清真学園高等学校 〈栃木県〉 県立宇都宮高等学校 〈群馬県〉 県立中央中等教育学校 〈千葉県〉 県立千葉高等学校 聖徳大学附属女子中学校・高等学校 県立千葉女子高等学校 成田高等学校・附属中学校 県立小金高等学校 〈東京都〉 明治大学附属中野中学校 東京高等学校 品川女子学院 都立立川高等学校 都立日比谷高等学校 豊島岡女子学園高等学校 雙葉高等学校 海城中学校 〈神奈川県〉 湘南白百合学園高等学校 森村学園中高等部 県立横浜平沼高等学校 〈新潟県〉 県立高田高等学校 〈山梨県〉 甲州市立松里中学校 〈長野県〉 長野高等学校 須坂高等学校 〈京都府〉 京都女子中学・高等学校 〈奈良県〉 奈良学園登美ヶ丘高等学校 〈熊本県〉 県立御船高等学校

2) 第21回全国高等学校選抜オーケストラフェスタの開催

(12月26日~29日：日本青年館大ホール)

全国の高等学校のオーケストラ部、弦楽部等を対象に、その技術力・表現力の向上と交流を深めることを目的に、全日本高等学校オーケストラ連盟との共催で開催しました。参加校、生徒数の増加により前回より4日間で開催し、全国から72校・1団体のオーケストラ部や弦楽部の生徒約4,000人が参加し、参加校数・生徒数とも過去最高を記録しました。

フェスタはこれまで、大きく分けると3つの内容で構成してきました。メインは各学校の演奏です。同時に、会場で聞いている生徒一人一人が、演奏校へのメッセージカードに感想を書き、演奏することと演奏を聴き合うことの両方を大切にしてきました。各校は、このメッセージカードの内容を励みに、日々の練習に力を入れています。二つ目はそれぞれの学校から選抜された生徒による演奏（オーケストラ、弦楽アンサンブル）で、ふだん学校ではなかなか演奏できないような大曲に挑戦しようというものです。三つ目は生徒同士の交流会で、音楽を愛する仲間のネットワークを大きく広げる場になっています。

当事業は第1回目から日本青年館で開催され、年々規模が拡大してきました。今回は現日本青

年館での最後のフェスタであることから、生徒達からの寄せ書きが集まり、舞台上では「ありがとう日本青年館」などの横断幕を掲げる学校もありました。オーケストラ連盟や講師陣からも21回にわたって青年館で開催されてきたことを振り返り、惜別と新青年館への期待を新たに
する場面が多々見られました。

「選抜合奏」では、各校の代表メンバーが集まり臨時で編成される2組の選抜オーケストラの演奏を披露しました（演奏曲目と指揮者は下記の通り）。初めて一緒に演奏するメンバーが、限られたリハーサル時間の中で集中して作り上げた演奏は、多くの参加者の刺激となりました。

<オーケストラ（A）>

演奏曲目：ブリテン作曲・青少年のための管弦楽入門

指揮者：河地良智（洗足学園音楽大学 大学院 副学長・大学院長）

<オーケストラ（B）>

演奏曲目：シューベルト作曲・交響曲第7番「未完成」第1楽章

指揮者：大川内 弘（元日本フィルハーモニー交響楽団コンサートマスター）

フェスタ出場校（72校・1団体）は以下のとおり。（ ）内数字は出場回数です。

- <宮城県> 宮城学院高等学校(15) 宮城第一高等学校(15) 仙台第一高等学校(12)
富谷高等学校(9)
- <福島県> 県立福島高等学校(19) 県立橘高等学校(13)
- <茨城県> 清真学園高等学校・中学校(19)
- <栃木県> 県立栃木女子高等学校(11) 県立鹿沼高等学校(9) 県立宇都宮女子高等学校(1)
- <群馬県> 県立桐生女子高等学校(18) 県立中央中等教育学校(8)
- <埼玉県> 県立浦和西高等学校(19) 春日部共栄中学高等学校(21) 県立川越女子高等学校
(11) 浦和明の星女子中学・高等学校(8)
- <千葉県> 県立千葉中学校・高等学校(19) 国府台女子学院中学・高等部(15) 千葉市立稲毛
高等学校・附属中学校(19) 聖徳大学附属女子中学校・高等学校(21) 県立千葉女
子高等学校(21) 県立津田沼高等学校(15) 県立幕張総合高等学校(17) 成田高等
学校(13) 県立船橋高等学校(12) 県立小金高等学校(5) 市川中学校・高等学校
(3) 東邦大学付属東邦高等学校(2)
- <東京都> 都立青山高等学校(17) 明治大学附属中野中学高等学校(19) 都立日比谷高等学校
(10) 品川女子学院(10) 都立駒場高等学校(6) 江戸川女子中学高等学校(11)
目黒星美学園中学校・高等学校(5) 都立三田高等学校(4) 田園調布学園中等部高
等部(3) 都立西高等学校(2) 国際基督教大学高等学校(13) 明星学園中学校・
高等学校(20) 明星中学高等学校(20) 玉川学園(6) 大妻多摩中学高等学校(2)
都立南多摩中等教育学校(2)
- <神奈川県> 横浜英和女学院中学高等学校(18) 神奈川大学附属中・高等学校(12) 森村学園
中高等部(9) 関東学院中学校高等学校(8) 県立川和高 等学校(6) 聖光学院中
学校高等学校(5) 慶應義塾湘南藤沢中等部・高 等部(4) 日本女子大学附属
高等学校(3) 清泉女学院中学高等学校(3)
- <新潟県> 県立高田高等学校(9)
- <山梨県> 山梨県高等学校文化連盟(1)
- <長野県> 長野高等学校(19) 上田高等学校(14) 長野西高等学校(6) 須坂高等学校(6) 屋
代高等学校(6) 小諸高等学校(9) 松本秀峰中等教育学校(2)
- <岐阜県> 県立大垣南高等学校(5)
- <静岡県> 浜松開誠館中学校・高等学校(11) 静岡県西遠女子学園(9) 県立清水南高等学
校・同中等部(5)
- <愛知県> 安城学園高等学校(20)
- <京都府> 京都女子中・高等学校(19) ノートルダム女学院中学高等学校(3)
- <大阪府> 府立清水谷高等学校(6)

〈岡山県〉 県立岡山朝日高等学校(11)

〈広島県〉 広島大学附属中・高等学校(12) 山陽女学園中等部・高等部(6)

3) 指揮法初級講座2014年度の開催

(夏季8月17日～18日：山中湖畔荘清溪、冬季2月8日：日本青年館)

高校生オーケストラ指揮者のための初級指揮法講座を2年前から実施し、以後全日本高等学校オーケストラ連盟の主催、日本青年館の後援で開催しています。8月と2月の年2回開催してきました。5回目(夏季)は、前述のオーケストラ・サマークリニックの期間中に開催し、5校5人の生徒が参加しました。6回目(冬季)は7校18人の生徒が参加し、指揮者の河地良智先生の指導により、指揮法の基礎を学びました。参加者の在籍校は以下の通りです。

[夏季]

〈群馬県〉 県立中央中等教育学校 〈千葉県〉 成田高等学校 〈東京都〉 雙葉高等学校 〈神奈川県〉 県立横浜平沼高等学校 〈新潟県〉 県立高田高等学校

[冬季]

〈埼玉県〉 県立川越女子高等学校 〈東京都〉 目黒星美学園中学校高等学校 都立青山高等学校 田園調布学園中等部高等部 東京大学教育学部附属中等教育学校 〈神奈川県〉 慶應義塾湘南藤沢中等部・高等部

4) 全日本高等学校選抜オーケストラ・オーストリア公演2015の支援

(平成27年3月24日～4月1日：オーストリア・ウィーン、オーバーシュッツェン)

全国の中・高校生、大学生を対象に募集して選抜オーケストラを結成し、オーストリアでコンサートと交流会を行うことを通じて、一人ひとりの音楽性の向上と国際性を育てることを目的に毎年春休み期間に実施しており、今年度は第19回目の海外派遣となりました。

指揮者には、これまで高校オーケストラ事業をご指導いただいている、河地良智先生(洗足学園音楽大学・大学院・副学長・大学院長)をお招きしました。

2月7日～8日(日本青年館)、3月24日～25日(山中湖畔荘清溪)の2回の練習合宿を経て、3月26日～4月1日の日程でオーストリアを訪問しました。参加者は、全国26の中学校・高校・大学、及び一般参加計47人の演奏メンバーと、指揮者・引率教諭・旅行社・応援団・撮影班等含め、総勢59人でした。

3月24日より山中湖畔荘清溪で直前合宿を行った後、26日未明に羽田空港からオーストリア・ウィーンへ出発しました。ウィーンのウィーン・ヴォテューフ教会、ブルゲンランド州青少年オーケストラとの合同演奏会(オーバーシュッツェン文化会館)、ウィーン楽友協会でのコンサート、計3回の演奏会は無事に終了し、4月1日に全員無事に帰国しました。主催は全日本高等学校オーケストラ連盟。

(1) コンサート (日時は現地時間)

①3月27日(木) 19:00 ウィーン・ヴォテューフ教会

シューベルト/ロザムンデ序曲

アンダーソン/プリンク プランク プルンク、舞踏会の美女

J. シュトラウスⅡ/南国のバラ

滝廉太郎/荒城の月

シューベルト/交響曲第7番「未完成」第1楽章

②3月28日(金) 18:00 オーバーシュッツェン文化会館

「ブルゲンランド州青少年オーケストラとの合同演奏会」

シューベルト/ロザムンデ序曲、交響曲第7番「未完成」第1楽章

③3月30日(日) 19:30 ウィーン楽友協会ホール

シューベルト/ロザムンデ序曲、交響曲第7番「未完成」第1楽章

ブリテン／青少年のための管弦楽入門

(2) 参加者在籍校（全国26校より47人の演奏メンバーが参加）

〈宮城県〉東北大 〈茨城県〉清真学園高等学校・中学校 〈群馬県〉群馬県立中央中等教育学校
〈埼玉県〉西武学園文理高等学校 春日部共栄中学校・高等学校 浦和明の星女子中学校・
高等学校 〈千葉県〉成田高等学校 県立船橋高等学校 市川高等学校 千葉大学 〈東京都〉
都立日比谷高等学校 白百合学園中学校 目黒星美学園高等学校 あずさ第一高等学校 聖
心女子大学 学習院大学 日本体育大学 武蔵大学 〈神奈川県〉県立横浜平沼高等学校 清
泉女学院中学高等学校 〈長野県〉長野高等学校 屋代高等学校 上田染屋丘高等学校 佐久
長聖高等学校 信州大学 〈愛知県〉名古屋芸術大学

7. 第19回清溪セミナーの開催（11月12日～14日 日本青年館）

若手政治家や政治家を目指す若者を対象に学び合いの場を提供してきた清溪セミナーも19回目を数えます。今回は29都道府県より129名の参加者により開催しました。今回の特徴は全国都道府県、市町村議会の会派宛てに案内したことで、84名は初参加でした。セミナーでは、消滅可能性自治体が公表され、座長としてとりまとめられた増田寛也先生の講演、生き残りをかけた独自の取り組みを展開している海士町の政策など、多彩なプログラムを組むことができました。今回の講座と講師は以下の通り。なお、第20回清溪セミナーはスクワール麹町（東京都千代田区）を会場として開催する予定。

「ストップ少子化・地方元気戦略」	日本創成会議座長	増田 寛也氏
「地域再生への挑戦」	島根県海士町長	山内 道雄氏
「地方創成～女性が鍵」	前千葉県知事	堂本 暁子氏
「パネルディスカッション～地方議員、議会の実情とは」		
パネリスト	和光大学教授	竹信三恵子氏
	東京都議会議員	両角 穰氏
コーディネーター	愛知県日進市議会議員	白井えり子氏
「安倍政権の行方」	白鷗大学教授	福岡 政行氏
「復興に向けて」	岩手県釜石市市長	野田 武則氏

8. 第70回田澤義鋪記念会の開催（11月7日 日本青年館）

田澤義鋪の残した民主的平和的な社会教育上の精神と業績を伝え、これの実現に努めることを目的に、毎年、田澤義鋪記念会を開催しています。70回目を迎えた今回は1年間の活動報告の後、元日本青年館70年史の編纂作業委員長長の多仁照廣先生に「田澤義鋪と蓮沼門三・山本瀧之助の出会いー青年指導・若連中のことなどー」のテーマで講演していただきました。講演では特に、田澤先生と蓮沼門三、山本瀧之助の偉大な三人の青年指導者たちが若連中を青年運動の基礎においた点に触れ、このような歴史から学び、新しい青年団運動への期待を話されました。昨今の青年団再生は、そのきっかけを地域のお祭りや郷土芸能においているケースが多々みられることから、参加者からも共感を得る講演となりました。

9. 国際交流活動

1) 中日青年交流センターとの交流

中日青年交流センターは、1984年、当時の中曽根康弘内閣総理大臣と中国の胡耀邦総書記との共同発意によるもので、日中友好21世紀委員会が、その建設をそれぞれの政府に提唱し、日

本政府の無償資金協力と中国政府の資金により1991年共同プロジェクトで建設された施設です。

以来、日本青年館は施設の運営等について支援するため、中日青年交流センターから研修生を受け入れるなど施設間の交流を続けてきました。今年度の交流は以下の通り、相互に訪問・交流し、相互理解と友好を深め合いました。

(1) 中日青年交流センター幹部職員の受け入れ (7月22日～26日：北海道他)

孫俊波・中日青年交流センター主任を団長とする5名を招聘しました。札幌から来日した一行は、市内にあるポプラ若者活動センターを視察し、夜は北海道青年会館の岡理事長はじめ役職員による歓迎会で交流しました。翌日は北海道庁に窪田知事室長を表敬訪問。その後山中湖畔荘清溪、国立オリンピック記念青少年総合センター、日中緑化交流基金、(一財)日本友愛協会等を訪れ友好を深め、無事帰国しました。また日中双方から提案された新たな「友好協力合意書」については今後協議することとし、山本常務理事が訪中した7月31日に合意し、8月1日から5年間の有効期間としました。訪日団の名簿は以下のとおり。

団 長	孫 俊波	中日青年交流中心	主任
秘書長	李 偉	中日青年交流中心	弁公室主任
通 訳	潘 明宇	中日青年交流中心	国際交流部アジア・アフリカ課副科長
団 員	李 悦	中日青年交流中心	21世紀ホテル総経理
	梁 健	中日青年交流中心	21世紀ビル経営管理部部長

(2) 日本青年館訪中団の派遣 (1月18日～25日 北京・杭州ほか)

中日青年交流センターの招きにより山本常務理事を団長とする各会館関係者13名の代表団を組織し、北京市のほか、杭州、烏鎮、上海の旅に派遣しました。今回の主な訪問地は次のとおり。①北京市ボランティアサービスセンター、②杭州市青年連合会(呉潔静共青团副書記)、③同市青少年発展センター(黄建明主任)、④上海市青少年活動センターなどで視察や交流を通じて互いの活動に学び合い、友好を深めることができました。

訪中団の名簿は以下のとおり。

団 長	山本 信也	(一財)日本青年館常務理事
顧 問	佐々木計三	(株)ニッセイ代表取締役
秘書長	江口 芳人	(一財)日本青年館総務課長
団 員	國廣 京子	(一財)北海道青年会館評議員
	塩田 秀雄	前山形県南陽市市長
	金子 利昭	(株)ニッセイ大ホール支配人
	松田 英己	元日本青年館職員
	岩永 友佳子	(一財)滋賀県青年会館理事長夫人
	奥村 いつ子	(一財)滋賀県青年会館維持会員
	中西 宏一	(一財)滋賀県青年会館維持会員
	中西 朋子	(一財)滋賀県青年会館維持会員
	村上 嘉彦	(一財)防長青年館維持会員
	鈴木 茂	(一財)日本青年館 山中湖畔荘清溪支配人

10. 関連事業

1) 全国青年会館協議会活動

各県における青年団運動の拠点としての役割を担う青年会館の建設は、昭和25年2月の佐賀県青年会館がスタートでした。その後、各地に青年会館の建設運動が起こり、現在21の都道県に青年団の手による青年会館が建設されています。それらの青年会館同士の連絡協調と青年団

体の振興、地域社会の発展を図ることを目的として、全国青年会館協議会が組織され活動しています。

主な活動内容は、財団運営に関わる研修、青年団をはじめとする青少年団体への支援、施設運営のノウハウの相互交換など多岐にわたっています。また、中日青年交流センターとの交流など、国際交流も行い施設の運営等に役立てています。今年度は以下の活動を展開してまいりました。

(1) 総会の開催 (6月8日～9日 山口県・防長青年館)

14会館より18名の参加を得て開催した総会では、平成25年度の事業報告・決算報告及び平成26年度の事業計画・予算について審議・決定しました。また平成27年度の総会開催地については沖縄県青年会館が担当することも了承されました。視察プログラムは金子みすゞ資料館・香月泰男美術館などを視察し、散会しました。なお、総会では46年にわたり福井県青年館役員としてその発展に尽くした大西義幸会長に対して表彰状が授与されました。

(2) 理事長会の開催 (9月9日～10日 秋田県青年会館)

12会館より15名の参加を得て理事長会を開催しました。会議では、各会館の運営状況について意見交換しました。その後秋田県副知事より、急激に進む人口減少対策についてご講演をいただきました。翌日は井川町の彫刻の森ほかを視察し解散しました。

(3) 理事会の開催 (2月17日 日本青年館)

平成26年度の決算見込み、平成27年度事業計画並びに予算案を審議するために理事会を開催しました。会議では来年度の会費を2万円にし、事業参加費を1.5万円とすることや事業は沖縄での総会にあわせ、役職員会議を同時開催することを決めました。また、来年度が役員改選期にあたるため、平成27年度から28年度の2年間の任期の役員体制について協議し、現体制で総会に諮ることとしました。

(4) 幹部役職員会議の開催 (2月17日～18日 日本青年館)

11会館より17名の参加により役職員会議を開催しました。初日には文部科学省生涯学習政策局社会教育課より鍋島豊地域・学校推進室長をお呼びし、「土曜学習応援団」について講演していただきました。各地の青年会館に子ども達にとっての応援団に賛同していただくよう呼びかけられました。2日目は皇居三の丸尚蔵館を視察し、東京駅で昼食後散会しました。

(5) 加盟青年会館一覧 (平成27年4月1日現在)

一般財団法人北海道青年会館	〒060-0806	札幌市北区北六条西 6-3-1	TEL011-726-4235
一般財団法人岩手県青少年会館	〒020-0196	盛岡市みたち 3-38-20	TEL019-641-4550
一般財団法人宮城県青年会館	〒983-0836	仙台市宮城野区幸町 4-5-1	TEL022-293-4631
一般財団法人秋田県青年会館	〒011-0905	秋田市寺内神屋敷 3-1	TEL018-880-2303
福島県青年会館	〒960-8103	福島市舟場町 3-26	TEL024-523-1484
茨城県立青少年会館	〒310-0034	水戸市緑町 1-1-18	TEL029-226-1388
(公益社団法人茨城県青少年育成協会)			
一般財団法人栃木県青年会館	〒320-0066	宇都宮市駒生 1-1-6	TEL028-624-1417
群馬県青少年会館	〒371-0044	前橋市荒牧町 2-12	TEL027-234-1131
(公益財団法人群馬県青少年育成事業団)			
一般財団法人福井県青年館	〒910-0005	福井市大手 3-11-17	TEL0776-22-5625
一般財団法人静岡県青少年会館	〒420-0068	静岡市葵区田町 1-70-1	TEL054-255-2566
一般財団法人愛知県青年会館	〒460-0008	名古屋市中区栄 1-18-8	TEL052-221-6001
一般財団法人滋賀県青年会館	〒520-0851	大津市唐橋町23-3	TEL077-537-2753
一般財団法人島根青年館	〒690-0033	松江市大庭町 1751-13	TEL0852-21-2818
一般財団法人岡山県青年館	〒700-0081	岡山市北区津島東 1-4-1	TEL086-254-7722

一般財団法人防長青年館	〒753-0064	山口市神田町 1-80	TEL083-923-6088
特定非営利活動法人高知県青年会館	〒781-2122	吾川郡いの町天王北 1-14	TEL088-891-5300
一般財団法人佐賀県青年会館	〒849-0923	佐賀市日の出 1-21-50	TEL0952-31-2328
一般財団法人熊本県青年会館	〒862-0950	熊本市水前寺 3-17-15	TEL096-381-6221
一般財団法人鹿児島県青年会館	〒890-0005	鹿児島市下伊敷 1-52-3	TEL099-218-1225
一般財団法人沖縄県青年会館	〒900-0033	那覇市久米 2-15-23	TEL098-864-1780

〈事務局〉

一般財団法人日本青年館 〒105-0001 港区虎ノ門 3-23-6 秀和虎ノ門三丁目ビル 4階 TEL03-6452-9015

2) 全国青年団OB会総会東京大会の開催（10月13日～14日 日本青年館）

折からの台風19号の北上に伴い33名の直前キャンセルがあったが、35都道府県から241名の参加を得て開催しました。初日は、一般招待客も含め満員となった大ホールにて上條恒彦コンサートを鑑賞した後、中ホールで開会式、総会を開催しました。今回の総会にあわせ、長年交流のある中華全国青年連合会より賈棟鏢氏、任世寧氏、何傑氏の3名の元幹部代表団をお招きし、中国大使館からも来賓1名が出席しました。二日目は台風の影響により当初予定の皇居参観が宮内庁からの指示で中止となり、急遽日程変更して、全員が明治神宮を参拝し、その後青年館で今泉宜子・明治神宮国際神道文化研究所主任研究員による「明治神宮造営と青年団の勤労奉仕」特別講演を実施しました。お話しいただいた講演内容については、全国青年団OB会により来年の総会までにブックレットとして作成することとしています。

3) 大九報光会の開催（11月1日 明治神宮）

明治神宮造営に際し、全国の青年団が労力奉仕にあたり、そのことがきっかけとなって日本青年館は誕生しました。その造営の労力奉仕に参加された方々が1950年（昭和25年）11月1日、明治神宮御鎮座30年祭に参加された折、そのことを記念して大九報光会を結成しました。「大九」とは、明治神宮御鎮座の年、大正九年に由来し、さらに耐乏生活に耐え、光明と希望に生きる耐久生活にもかけて命名されたものです。以来、ほぼ毎年11月1日に労力奉仕に参加された方の二世、三世の方々等により明治神宮において総会が開催されています。

今年も関係者15名による総会を明治神宮において開催し、その後、秋の大祭に参列いたしました。

4) 清溪フォーラム行政懇談会の開催（10月24日～25日 山口県長門市）

青年団出身の首長で組織している清溪フォーラム（会員数7名）幹事会を、6月3日に日本青年館にて開催しました。今年の行政懇談会は山口県長門市で10月24日～25日に開催。宮城県大崎市、山梨県甲斐市、愛知県豊明市、富山県魚津市から市長の参加があり、大西・長門市長から報告された「ながと成長戦略行動計画」をもとに意見交換するとともに長門宣言を採択しました。また幹事長に大西市長を、監事に澤崎・魚津市長を選出した。翌日は金子みずゞ記念館他を視察しました。

会員は以下の通り（敬称略）

会 長	伊藤 康志	(宮城県大崎市長)
幹 事 長	塩田 秀雄	(山形県南陽市長)
幹 事	保坂 武	(山梨県甲斐市長)
	石川 英明	(愛知県豊明市長)
	澤崎 義敬	(富山県魚津市長)
	金森 勝雄	(富山県舟橋村長)
監 事	大西 倉雄	(山口県長門市長)

5) 全国青年団OB県議の会の開催（11月10日 日本青年館）

平成16年に、全国の青年団への支援と地域社会の発展に寄与する事を目的として結成されました。11月10日には総会を開催しました。現在会員は13名。今年度の現役青年団活動への奨励賞は、3月6日に開催された全国青年問題研究集会において、滋賀県今津町青年団の「今青親子肝試し」に贈呈しました。

会員名簿は以下の通り（敬称略）

会 長	内田 博長（鳥取県）
幹 事 長	宮本 光明（富山県）
幹 事	木本 利夫（石川県）
会 員	瀬田川栄一（秋田県） 青山 秋男（愛知県） 伊藤 保（鳥取県） 大野 久芳（富山県） 瀬川 光之（長崎県） 中野 一則（宮崎県） 三浦 治雄（滋賀県） 御手洗吉生（大分県）
監 事	田中 敏幸（福井県）

6）3.1日本青年館ファイナル事業の開催（3月1日 日本青年館大ホール）

千駄ヶ谷地区連合町会、渋谷商店会外苑ブロック、南北青山二丁目町会、青山外苑前商店街振興組合など、外苑地区内の商店会、町会約30団体による実行委員会により、「ありがとう そして さようなら日本青年館ファイナル」～神宮外苑地区・感謝の集い～が開催されました。日本青年館と(株)ニッセイも実行委員団体として協力しました。当日は桑原敏武渋谷区長が来賓として挨拶されたほか、千駄ヶ谷小学校、鳩森小学校の児童生徒による器楽演奏、国立能楽堂からは「能楽素囃子」、渋谷区婦人会による渋谷オリンピック音頭など多彩な演芸が披露されたほか近隣住民による35のカラオケ披露、最後は原宿外苑中学校と原宿よさこい連による「よさこい踊り」で幕を閉めました。近隣住民による約600名の皆さんが思い思いに日本青年館の最後を楽しまれました。

1 1 . 後援・協力事業

今年度、日本青年館が依頼を受けて後援・協力をした事業は下記のとおりです。

- ① 版画フォーラム2014年和紙の里ひがしちちぶ展（平成26年6月21日）
〈主催者〉 版画フォーラム実行委員会
後援名義使用、日本青年館賞提供
- ② 第16回全国こども民俗芸能大会（平成26年8月5日）
〈主催者〉 公益社団法人全日本郷土芸能協会
後援名義使用
- ③ 第40回太陽美術展（平成26年11月16～24日）
〈主催者〉 太陽美術協会
後援名義使用、日本青年館賞提供